

令和3年度 芸術(音楽) 科
教科名等

校内科目名	学習指導要領 の科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
音楽 I	音楽 I	3	A B C D E F	2	必修選択	70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	瀧澤 諭
授業形態	講義、演習、発表
教科書	音楽 I 改訂版 Tutti, 教育出版社
使用教材等	記録シート、プリントの楽譜、資料

科目の目標・内容等

学習目標	芸術必履選択科目として、音楽の基礎である歌唱や器楽を学習する。
学習における 留意点	2クラス合同で約30名生徒の個々の学習能力を把握して授業を進行する。
予習・復習	歌う楽曲やピアノ(キーボード)・ギターの全体練習及び個人練習時間を設定。
評価方法	独唱・独奏、「記録シート」および授業へ向かう態度。

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	・オリエンテーション ・発声練習とストレッチ ・歌唱 「翼をください」「少年時代」 「涙そうそう」 「やさしさに包まれたなら」 ・ピアノ(キーボード) 音階(長音階、和声的・旋律的短音階) 楽曲「きらきら星変奏曲」	【新型コロナウイルス対策による歌唱が不可能な場合は、器楽(ピアノ・ギター)を先行して取り組む。】 ・基本的な発声の姿勢 ・各曲のテキスト(歌詞)からイメージして世界観を考えながら歌う。 ・正しい指使いで右手・左手・両手の順で様々な音階を練習する。 12 Variationen über „Ah, vous dirai-je, Maman“ より主題と変奏曲を練習	①全体練習で、②独唱で、③独奏での到達点。 ・個別練習に向かう姿勢(正確な譜読み・集中度) ・「記録シート」へ記入した感想・意見
2	・発声練習とストレッチ ・歌唱 「野ばら Heidenröslein」(Werner, Schubert作曲) /ドイツ語歌詞 「White Christmas」 「Edelweiss」/英語歌詞 ・ギター(クラシック) 音階のポジション 「きらきら星」 「フレール・ジャック」 「大きな古時計」	・日本語訳詞でメロディーを把握する。 ・外国語の歌唱法 発音練習、アクセントや子音の付け方 ・ギター奏法の基礎 フレット上のポジションを把握する。 生徒に馴染み深い曲のメロディーを弾く。	①全体練習で、②独唱で、③独奏での到達点。 ・個別練習に向かう姿勢(正確な譜読み・集中度) ・「記録シート」へ記入した感想・意見
3	・発声練習とストレッチ ・歌唱 「さくら(独唱)」 「The Second Star To The Right」「It's A Small World」/英語歌詞 ・ピアノ(キーボード)の弾き歌い 「小さな世界」 「君をのせて」	・1学期と2学期の応用編としての歌唱方法 ・簡易な伴奏楽譜で右手・左手・両手の順で歌と合わせる。	①全体練習で、②独唱で、③独奏での到達点。 ・個別練習に向かう姿勢(正確な譜読み・集中度) ・「記録シート」へ記入した感想・意見

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

令和3年度 芸術(音楽) 科
教科名等

校内科目名	学習指導要領 の科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
α 音楽Ⅱ	音楽Ⅱ	2	A B C D E F	2	必履修	70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	瀧澤 諭
授業形態	講義、演習、発表
教科書	音楽Ⅱ 改訂版 Tutti, 教育出版社
使用教材等	記録シート、プリントの楽譜、資料

科目の目標・内容等

学習目標	芸術必履選択科目＜音楽Ⅰ＞の応用編として、より深く歌唱や器楽を学習する。
学習における 留意点	2クラス合同で3展開、生徒各20名前後の個々の学習能力を把握して授業を進行する。
予習・復習	歌う楽曲やピアノ(キーボード)・ギターの全体練習および個人練習時間を設定。
評価方法	独唱・独奏、「記録シート」および授業へ向かう態度。

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	・発声練習とストレッチ ・歌唱 「Amazing Grace」「When You Wish Upon A Star」「A Whole New World」 /日本語訳詞と英語歌詞 「小さな空」「島へ」「翼」 (武満徹の音楽作品) ・ピアノ(キーボード)独奏 「Menuett」(J.S.Bach)/他	【新型コロナウイルス対策による歌唱が不可能な場合は、器楽(ピアノ・ギター)を先行して取り組む。】 ・基本的な発声の姿勢 ・各曲のテキスト(歌詞)からイメージして世界観を考えながら歌う。 ・歌を通して自己表現する。 ・英語歌詞の歌唱方式の発音練習 ・指定された指使いで右手・左手・両手の順で簡易なピアノ曲を練習する。 ・ピアノを通して表現力を身につける。	①全体練習で、②独唱で、③独奏での到達点。 ・個別練習に向かう姿勢(正確な譜読み・集中度) ・「記録シート」へ記入した感想・意見
2	・発声練習とストレッチ ・歌唱 「Moon River」/英語歌詞 「Ah! Vous direz-je, maman きらきら星」 「Les Feuilles mortes 枯葉」/ フランス語歌詞 ・ギター(クラシック) 音階のポジション(最低音域から最高音域まで) 「海に見える街」 「私のお気に入り」 「Scaborough Fair」	・日本語訳詞でメロディーを把握する。 ・外国語の歌唱法 発音練習、アクセントや子音の付け方 表現方法を広げる。 ・ギター奏法の基礎と応用 フレット上のポジションを高音域まで把握する。コードチェンジ奏法 生徒に馴染み深い曲のメロディーを弾く。(中級編)	①全体練習で、②独唱で、③独奏での到達点。 ・個別練習に向かう姿勢(正確な譜読み・集中度) ・「記録シート」へ記入した感想・意見
3	・発声練習とストレッチ ・歌唱 「My Favorite Things」 「Some Day My Prince Will Come」英語歌詞 「Aux Champs-Élysées」フランス語歌詞 ・ピアノ(キーボード)の弾き歌い 「いつか王子様が」	・1学期と2学期の応用編としての歌唱方法 ・簡易な伴奏楽譜で右手・左手・両手の順で歌と合わせ、オリジナルの世界観を意識して演奏する。	①全体練習で、②独唱で、③独奏での到達点。 ・個別練習に向かう姿勢(正確な譜読み・集中度) ・「記録シート」へ記入した感想・意見

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

令和3年度 芸術(美術) 科
教科名等

校内科目名	学習指導要領 の科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
美術 I	美術 I	1	A B C D E F	2	必修選択	70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	齊藤 有里恵
授業形態	実技
教科書	美術1(光村図書)
使用教材等	課題に応じたプリント配布、画用紙、鉛筆、練り消しゴム、アキーラガッシュ水彩画セット、ペーパーウェイト(雲南石)、電動卓上糸鋸盤

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

科目の目標・内容等

学習目標	創作をする楽しみを知る。課題に応じた構想・発想力、技術を身につけ、表現方法を獲得する。
学習における留意点	いずれの課題に於いても、観察力、発想力、想像力、技術力、表現力の向上を目指す。作品と向き合う時の集中力や創作意欲を持続させることも大切である。
予習・復習	創作に必要な資料を用意する。日常生活の中でアイデアのヒントを得る。
評価方法	各課題の作品で評価する。教材・用具・資料の準備、出席率、授業態度も加味する。

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	●鉛筆デッサン「私の手」 ●色彩の基礎「平面構成」	●鉛筆デッサンの基礎を学ぶ。 鉛筆の硬度の違いや、練り消しゴムの扱い方を学ぶ。モチーフである自分の手をよく観察して、実物大でデッサンする。光の方向、陰影の表現方法などの技術力の向上と観察眼を養う。 ●色彩の基礎を学び、応用として平面構成を制作する。身の回りにあるものが、いかに色彩の工夫をされているかを学び、今後の制作へも生かす。	・意欲的に取り組んでいる。 ・細部まで、こだわりを持って表現している。 ・教材、用具、資料の準備ができています。 ・作品の完成度
2	●木彫「木彫箱」 ●水彩・コラージュ 「モダンテクニックの表現」	●彫刻刀の名称と彫りの基礎を学び、木彫箱のデザインを考える。デザインにふさわしい彫り方を考え、仕上げにはアクリル絵の具で着色するが、着色の仕方にも工夫をする。 ●水彩によるモダンテクニックの表現を学び、実践する。それらの紙を基に、コラージュによる表現を試みる。	・制作に意欲的に取り組んでいる。 ・彫刻作品ならではの凹凸を生かした作品になっている。 ・水彩の特徴を生かした表現になっている。 ・教材、用具、資料の準備ができています。 ・作品の完成度
3	石彫「ペーパーウェイト」	石彫の基礎を学び、7×7×2cmサイズの雲南石で、立体感のあるペーパーウェイトに仕上げる。立体を意識したデザインと、それをどのように彫ったり磨いたりして仕上げるかという計画性も養う。	・制作に意欲的に取り組んでいる。 ・細部まで、こだわりを持って表現している。 ・教材、用具、資料の準備ができています。 ・作品の完成度

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

令和3年度 芸術(美術) 科
教科名等

校内科目名	学習指導要領 の科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
α 美術Ⅱ	美術Ⅱ	2	A B C D E F	2	必修選択	70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	松木茂 、 齊藤有里恵
授業形態	実技
教科書	美術Ⅱ 光村図書
使用教材等	ワークシート、画用紙、鉛筆、練り消しゴム、アクリル絵の具、彫刻刀、電動糸鋸盤、紙やすり、粘土ヘラ、のし棒

科目の目標・内容等

学習目標	多様な表現の良さや美しさなどを味わい、制作工程を考え表現を工夫する力を育てる。
学習における 留意点	観察力、発想力、想像力、技術力、表現力の工場を目指す。作品と向き合う時の集中力や創作意欲を持続させることも大切である。
予習・復習	創作に必要な資料を用意する。日常生活の中でアイディアのヒントをえる。
評価方法	各課題の作品の完成度で評価する。教材・用具・資料の準備、出席率、授業態度も加味する。

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	●鉛筆デッサン 「メビウスの輪」 ●木彫「テープカッター」	●鉛筆デッサンの基礎を確認する。 鉛筆の硬度の違いや、練り消しゴムの扱い方を学ぶ。モチーフであるメビウスをよく観察して、実物大でデッサンする。光の方向、陰影の表現方法などの技術力の向上と観察眼を養う。 ●木彫の基礎を確認し、テープカッターにふさわしいデザインを考える。電動糸鋸盤の扱い方を学び、丁寧に仕上げて着色する。	制作に意欲的に取り組んでいる。 よく観察し、細部までこだわりを持って表現している。 ワークシート。 表現のための技術の習熟度。 作品完成度。
2	「陶芸」 「版画」	カップを粘土で制作する。 実用性を考えてデザインをする。 発想や構想の能力を高める。 完成のイメージを湧かせて、細部までこだわりを持たせる。 お互いの作品を鑑賞し良さを味わう。 四季をテーマに絵葉書を制作。図案を考え凸版をつくる。 陽刻法と陰刻法について理解する。	独自の構想を練り展開している。 制作に意欲的に取り組んでいる。 ワークシート。 表現のための技術の習熟度。 作品完成度。
3	「絵画の再構成」	1学期の風景面の再構成。抽象化や再構成の手法を用いて構想し表現につなげる。デカルコマニー、コラージュ、フロッタージュなどの技法を学ぶ。 画面全体の統一感を意識しながら、完成度を上げる。 お互いの作品を鑑賞し良さを味わう。	細部までこだわりを持って表現している。 制作に意欲的に取り組んでいる。 ワークシート。 作品完成度。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

令和3年度 芸術(書道) 科
教科名等

校内科目名	学習指導要領 の科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
書道 I	書道 I	1	A B C D E F	2	必修選択	70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	山本晃一
授業形態	講義、実技実習等
教科書	書 I, 光村図書
使用教材等	適宜資料等を配布

科目の目標・内容等

学習目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。
学習における留意点	書道は表現と鑑賞が表裏一体の関係にあり、筆での表現だけが書道の学習ではなく、古典の鑑賞や自身の作品の鑑賞も大切な学習となる。
予習・復習	授業で扱った古典や自身の作品を鑑賞し復習する。また、次回扱う古典の鑑賞も行い実技表現に活かす。
評価方法	提出物、授業への取り組み等から総合的に評価する。

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	・書写から書道へ ・書道で学習すること ・漢字の変換と様々な書体 ・漢字の書【楷書】	中学での国語科書写で学習したことを確認し、芸術科書道への移行をしていく。 漢字の変遷を学び、最後に成立した楷書から臨書学習をはじめ、様々な楷書の表現技能や鑑賞の能力を習得していく。	芸術科書道の学習に関心を持ち、意欲的に取り組むことができたか。 各古典を鑑賞、臨書を通じて書風の表現要素を理解し、用筆、運筆の技術を習得できたか。 また、その美について感受できたか。
2	・漢字の書【行書】 ・漢字の書【草・隸・篆刻】 ・仮名の書	様々な漢字の古典の臨書学習を通じて、各書体の表現技能、鑑賞能力を習得し、各書体への関心を高めていく。 漢字の書のまとめとして創作活動をする。 漢字が日本に伝来し発生した仮名の書を、古筆を通して臨書学習する。	芸術科書道の学習に関心を持ち、意欲的に取り組むことができたか。 各古典を鑑賞、臨書を通じて書風の表現要素を理解し、用筆、運筆の技術を習得できたか。 また、その美について感受できたか。
3	・創作(仮名) ・漢字仮名交じりの書 ・篆刻	仮名の書のまとめとして創作活動をする。 これまでに学習してきた漢字と仮名をふまえ、漢字仮名交じりの書について学び、表現技能と鑑賞の能力を習得する。 篆刻の学習を通じ、毛筆以外の書の文化に触れ書への関心を高める。	芸術科書道の学習に関心を持ち、意欲的に取り組むことができたか。 各古典を鑑賞、臨書を通じて書風の表現要素を理解し、用筆、運筆の技術を習得できたか。 また、その美について感受できたか。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。

令和3年度 芸術(書道) 科
教科名等

校内科目名	学習指導要領 の科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
α 書道Ⅱ	書道Ⅱ	2	C D E F	2	必修選択	70 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	山口幾世子
授業形態	実技
教科書	書Ⅱ 光村図書
使用教材等	書道用具一式・表具用材・スクラッチ皿

科目の目標・内容等

学習目標	書の文化や古典作品について理解を深め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばす。
学習における 留意点	基礎的技術を習得し、意図に基づいた表現力をつける。
予習・復習	制作工程プリント
評価方法	学習目標を理解し意欲的に作品制作に取り組んだか。 作品完成度。

年間授業計画

学期	単元・授業内容	学習の重点	評価の観点
1	『篆書』『隸書』の学習	書体の概形を理解し、水平な横画と起筆の筆使いを学ぶ。	作品制作に意欲的に取り組んだか。 技術の習熟度・作品の完成度。
2	『草書』の学習から『五字体』の創作へ	草書の特徴と用筆法(元字を把握したうえで原則をふまえずして書く。草書の柔らかさ緩急を意識しながら臨書する。) 五字体から好きな書体を選びスクラッチ皿に個性豊かな表現を見出す。	作品制作に意欲的に取り組んだか。 技術の習熟度・作品の完成度。
3	『漢字仮名交じりの書』の学習	漢字と仮名の調和を探究し、自己を見つめ言葉を吟味する。意図に基づく最適な表現方法を模索する。	作品制作に意欲的に取り組んだか。 技術の習熟度・作品の完成度。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。